

2024年8月26日

ユニチカ株式会社

分解後の環境負荷を限りなく抑制した 新規『生分解性ポリエステル樹脂』の合成技術の開発に成功

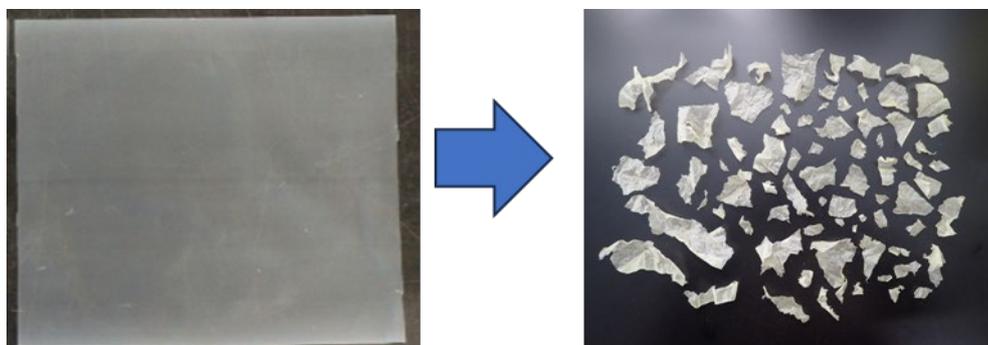
ユニチカ株式会社（本社：大阪府中央区、社長：上埜修司）は、分解後の環境負荷を限りなく抑制した『生分解性ポリエステル樹脂』の合成技術の開発に成功しました。

2024年6月に発表した非金属触媒を用いたポリエステル樹脂の重合技術に、さらに特定組成を組み合わせることで、金属を含まない生分解性を有するポリエステル樹脂を合成できる技術を開発しました。生分解性ポリエステルは、生分解性速度を上げたいというニーズがありますが、難易度が高く従来は実現が困難でした。今回開発した合成技術は、非金属触媒と特定組成の組み合わせにより、合成された生分解性樹脂の分解速度が向上し、分解後も触媒由来の金属が残りません。このため、限りなく環境負荷を抑制した生分解性ポリエステル樹脂の合成に資する重要な技術となります。

本技術は『生分解性ポリエステル樹脂』への展開のほか、ケミカルリサイクルを前提としたポリエステル樹脂へも応用でき、循環経済の強化を目指す経済産業省の最新報告^{※1}で取り上げられているリサイクルしやすさと合致するものであり、循環型社会の構築に寄与できると考えています。

※1資源循環経済小委員会報告 2024年6月27日

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sangyo_gijutsu/resource_circulation/pdf/009_03_00.pdf



コンポスト試験時の生分解性ポリエステルフィルム分解の様子

温度：ポリエステルのガラス転移温度+10°C

装置：アシドロ®コンポスト分解方式

以上

<本件に関するお客様のお問い合わせ先>

ユニチカ株式会社 樹脂事業部

機能樹脂営業部 機能樹脂第二グループ

TEL : 06-6281-5551

お問合せアドレス : ester1@unitika.co.jp

<本件に関する報道関係のお問い合わせ先>

ユニチカ株式会社 広報グループ

TEL : 06-6281-5695